



あけましておめでとうございます

平成28年度も残すところ2か月ほどとなりました。2学期までの学習で育ってきた期待感や意欲、主体性、そして身に付けた知識や技能を次のステップに結び付けていきましょう。また、今年度の子どもたちの学びを次年度に結び付けるための教育課程の編成を考えていきましょう。

さて、今回は月目標との関連から「目標や頑張ることを意識して学習に向かうための目標やめあて」について記載します。

◆学期の始めや新年に目標をたてることが多い！

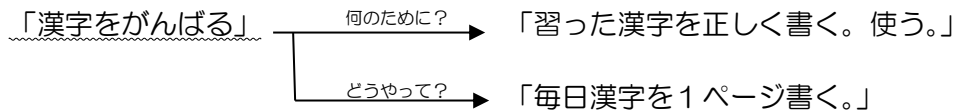
目標やめあてをもって、学習に向かったり、学校生活を送ったりしてほしいという願いから、学期や学習の始め、新年に「目標」や「めあて」をたてるが多くあります。「目標」や「めあて」をたてる本来の意味を考えると、学期や年度、学習が終わったときの到達点を表すものです。つまり、「目標」としたことが達成されたかどうか判断できる方が、よい「目標」や「めあて」と考えることができます。

◆『□□をがんばる』→『(がんばって) ○○できるようにする』

では、具体的にはどのような目標をたてていくのが、望ましいでしょうか？達成度を数値(%)で表す方法もありますが、子どもたちの学習上は適さないケースも多くあります。

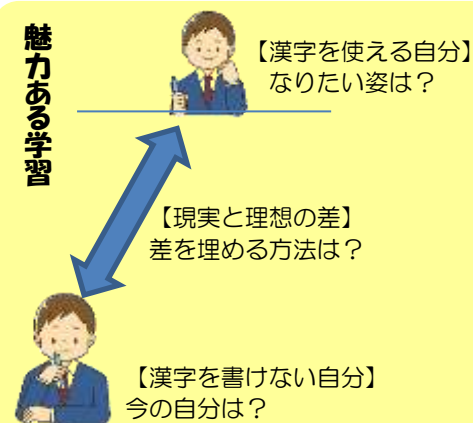
「目標」や「めあて」は、『□□をがんばる』よりも『(がんばって) ○○できるようにする』の方が、今できないことをできるようにがんばることになり、「目標」や「めあて」にどの程度近づいたか評価できます。

◆具体例としては…



何のために漢字をがんばりたいのか、それをどうやって達成させるのかなどを考えると、「漢字をがんばる」という目標は、『(がんばって) 毎日漢字を1ページ書いて、習った漢字を使って日記を書く。』と言い換えることができます。「目標」や「めあて」は、その目的や方法も一緒に考えることで評価できるものとなります。必ずしも、子どもが一人で考えられなくても、教師と一緒に「何のために?」「どうやってやる?」などと問いかけながら考えることで、評価しやすい目標となります。

魅力ある学習



「めあて」(なりたい姿)があれば、そこには自分なり(自分らしさ)の到達する手段や方法があって、その手段を見つけ、実行し、その結果、「めあて」が実現(自己実現)すること、この流れが期間(学期、年間、学習)を通しての活動が意味のあるもの(意味付け)になってきます。また、「めあて」をもつためには、児童生徒にとって魅力ある学習を展開することも大切な要素ですね。

同じ「目標」でも、一人一人達成する方法は、違う可能性があります。「目標」や「めあて」をどのようにして達成したのかを振り返る(記憶に残す)ことも大切です。早期から繰り返し積み上げていきましょう。

